

The 15th JTTRI-KOTI Joint Seminar 2019

日時: 令和元年10月16日・17日

場所: 運輸総合研究所 (東京)

■会議の概要

JTTRI-KOTI Joint Seminarは、日本と韓国の運輸交通分野の研究等について意見交換を行い、当該分野における両国の発展を目的としたセミナーである。本セミナーは、日韓が交互に幹事国となっているが、第15回目となる今回は東京での開催となった。初日(10月16日)は両機関における会議、二日目(10月17日)はテクニカルビジットを行った。

(1) 両機関における会議

韓国側は、政府機関である韓国交通研究院(KOTI)からChoong Yeol YE副

院長をはじめ研究員他計4名が参加した。他方、当研究所から、宿利会長、山内所長をはじめ多くの研究員が出席した。

本セミナーでは、両機関のトップによる基調講演を行うとともに、2つの議題について日韓双方の研究者が発表を行い、闊達な議論が展開された。

また、両機関で行っている共同研究(ジョイントスタディ)については、引き続き情報交換を行い、共同研究のテーマを設定する等今後詳細な検討を行うこととなった。

①基調講演 最近のトピック

山内所長から、台風19号の輸送分野

の被害状況、首都圏空港の容量拡大、鉄道整備と沿線開発に関する研究会等について発表があった。また、YE副院長から、韓国のシェアリングモビリティの方向性等について発表があった。

②議題1 共同研究(災害時の交通弱者等における避難対策)

日本側は、災害時における外国人の避難対策を、韓国側は、交通弱者の歩行能力と原子力災害の避難対策を発表した。

原子力災害時にバスを確保する方法・手段の共有、バスのドライバーの選定が課題である等議論が行われた。

また、原発事故も含めた災害ごとにマニュアルが策定されていること、災害を統括する省庁・部署の共有が図られた。

③議題2 運輸部門のAI技術の活用可能性

日本側は、運輸・観光部門のAI適用の可能性を、韓国側は、韓国におけるコネクティッド化・自動運転化に関する交通政策を発表した。

C-ITS事業におけるバス停の混雑状況を提供する仕組みの具体的効果、自動化された隊列走行トラックにおけるドライバー雇用の問題等議論が行われた。

また、交通分野でAI、ビッグデータ等をどのように活用していくか、モビリティのイノベーションに対してどう取り組むべきか等について、両機関で協力して研究を推進することの必要性が示された。

The 15th JTTRI-KOTI Joint Seminar 2019

13:30~13:40	開会挨拶 宿利正史 Choong Yeol YE	運輸総合研究所会長 韓国交通研究院副院長
13:40~14:30	(基調講演) 最近のトピック等 ・運輸総合研究所の研究テーマ等 山内弘隆 ・韓国のシェアリングモビリティの方向性 Choong Yeol YE	運輸総合研究所所長 韓国交通研究院副院長
14:30~16:00	(議題1) 共同研究—災害時の交通弱者等における避難対策— ・災害時における外国人の避難対策 崔 善鏡 ・交通弱者の歩行能力と原子力災害の避難対策 Jun LEE ・質疑応答	運輸総合研究所研究員 韓国交通研究院道路交通研究本部副研究委員
16:10~17:40	(議題2) 運輸部門のAI技術の活用可能性 ・運輸・観光部門のAI適用の可能性 安部遼祐 ・韓国におけるコネクティッド化・自動運転化に関する交通政策 Kyeong-Pyo KANG ・質疑応答	運輸総合研究所研究員 韓国交通研究院コネクティッド・自動運転研究センター長
17:40~17:50	(総括) 両機関の研究テーマに関する意見交換	
17:50~18:00	閉会挨拶 佐藤善信 Choong Yeol YE	運輸総合研究所理事長 韓国交通研究院副院長



④総括（両機関の研究テーマに関する意見交換）

両機関で行う共同研究の今後の方向性について、議論を行った。AI、ビッグデータ等新しい技術を使ったモビリティに関する調査研究については、世界中の研究機関で行っている中、両機関で関心が高いことが示された。

また、今後、両機関においてそれぞれの研究課題を共有して共通項を見つけ出し共同研究のテーマを決定した上で

来年度のセミナーで議論を行い、その研究報告書を発表することとなった。

（2）テクニカルビジット

韓国側は、KOTIのChoong Yoel YE 副院長をはじめ研究員他計4名、当研究所側は、宿利会長をはじめ研究員他計10名が参加した。

テクニカルビジットでは、南砂町駅改良工事他の現場を見学した。南砂町駅改良工事の見学では、東京メトロ東西

線の輸送改善や改良後の期待される効果の説明を受けた後、駅の2面3線化工事や掘削坑内でトンネル構築の状況を見学し、日本の最新の鉄道関連施設の状況を理解頂いた。

今回のセミナーにより、両研究所の交流は益々深く確かなものとなり、両機関の連携強化を図る良い機会となった。

（とりまとめ：池田隆之）